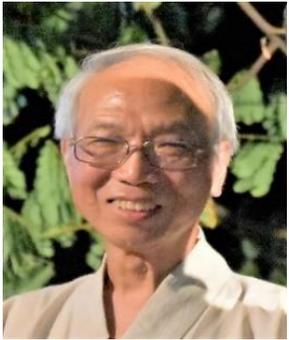


## 講師リスト

2021年4月06日

写真	名前	講義担当分野	主なカバー国	国際協力の経験
	<p>池田 明子 Ms. IKEDA, Akiko</p>	<p>国際協力、PKO 平和維持活動、開発一般（女性、社会開発）</p>	<p>中近東及びアフリカ</p>	<p>国連機関での経験 26 年：国連事務局（社会開発、PKO 平和維持活動）、FAO 食糧農業機関。フィールドの経験 10 年（イラク、コートジボワール、リベリア、レバノン、エジプト）。</p>
	<p>香川 重善 Mr. KAGAWA, Shigeyoshi</p>	<p>開発コンサルタント（水資源・給水・環境）調査技術、研究開発（地下水・飲料水）ODA（無償・開発調査・技ブ口等の計画監理、契約、調査、報告書、評価等）。</p>	<p>アジア、アフリカ、中東、中米など日本 ODA 諸国 38 年間で石油開発 5 年を経験。</p>	<p>国際開発（ODA 業務主任）、研修講師。1) アフリカ地域「水資源の開発と管理」JICA 研修、2) カウンターパート研修(地下水開発・給水計画・参加型維持管理の分野)、3) 大学院途上国留学生研究支援。</p>
	<p>加藤（山内）珠比 Ms. KATO, Tamahi</p>	<p>専門分野は「貧困削減」「政策分析」「平和構築」「インパクト評価」「プロジェクト評価」「アフリカ地域研究」等。</p>	<p>海外生活 15 年、日本 14 年と半分以上を海外で過ごしている。英国 7 年弱、タンザニア 4 年余り、グアテマラ 3 年、ニューヨーク 1 年、他短期出張での訪問国中南米を中心に多数。</p>	<p>これまで開発コンサルタントとして実務の仕事をしてきたが、研究生生活を経て今後は開発実務、研究双方に目配りして貢献したいと考えている。現在、アフリカ地域の農業・農村開発について研究している。</p>

	<p>神田 道男 Mr. KANDA, Michio</p>	<p>経済開発、技術移転、地域協力、環境問題、プロジェクト運営管理手法。</p>	<p>フィリピン、インドネシア、ミャンマーなど多数。(特に島嶼部アジア地域)</p>	<p>JICA・外務省経済協力局において40年にわたり、技術協力、無償資金協力を実施。この間、案件の形成・調査、援助人材の養成、援助案件の質の向上に関わる。</p>
	<p>小久保 和代 Ms. KOKUBO, Kazuyo</p>	<p>・キャリア・コンサルタントとして、学生の企業実習（インターン）、高等教育・訓練機関の組織的就職支援システムの構築を支援しています ・他に、当キャリア開発事業部の運営委員長として事務作業を行っています。お気軽にお声掛けください</p>	<p>インドネシア、カンボジア、タイなど東南アジア諸国。南アジア。ナイジェリア、タンザニアなどアフリカ諸国</p>	<p>多民族が働く多国籍企業で営業所運営の後、世界銀行東京事務所に入行。資金調達、出版物、本部専門職の採用を担当。2004年からJICAの高等教育・訓練機関の就職支援／人材育成プロジェクトに従事</p>
	<p>小林 文彦 Mr. KOBAYASHI, Fumihiko</p>	<p>プロジェクトファイナンス。 ワークアウト(企業再生と不良債権回収)。開発援助。 グローバルに働いた経験。</p>	<p>IFCと伊藤忠商事の計40年の業務で訪問した国は60カ国以上、その内アフリカは16カ国。米国勤務は伊藤忠商事ニューヨーク(10年)とIFCワシントン本部(11年)の計21年。</p>	<p>多国籍・多文化ビジネス環境の下での各種製造業(製紙・製鉄・食品・セメント等)、農業、水産業(エビ養殖・農園等)、ホテル、鉄道インフラ、鉱業等のプロジェクトファイナンスとワークアウトで多くの修羅場を経験。</p>

	<p>佐藤 桂子 Ms. SATO, Keiko</p>	<p>公共経済、開発プロジェクトモニタリング及び評価、開発プロジェクトポートフォリオマネージメント、プロジェクト人材育成、援助協調、援助戦略策定。</p>	<p>東アジア、主に中国とベトナム、及び東欧・中央アジア、主にトルコ。トルコに3年、ベトナムに4年駐在勤務</p>	<p>世界銀行に30年以上勤務。 東京事務所広報官を始めとして、東アジア局で援助協調、中国の公共部門改革プロジェクト、トラストファンドマネージメントなどを担当後、東欧・中央アジア局でプロジェクト管理強化を担当。トルコとベトナムに駐在勤務。 両国のポートフォリオマネージメント、プロジェクト管理強化、国別援助戦略などを担当。 世銀定年退職後、アジア開発銀行でコンサルタント。上智、京都大学、ベトナム貿易大学で講師</p>
	<p>鈴木 博明 Mr. SUZUKI, Hiroaki</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">自分の経験</a>に基づいた、国際開発金融機関等でのキャリア開発；</li> <li>• 開発プロジェクトサイクルの概要とプロジェクトサイクル各段階の開発金融業務；及び</li> <li>• <a href="#">世銀での調査研究経験</a>に基づいた開発調査研究の進め方。</li> </ul>	<p>中国・インドネシア・インド・パキスタン・ブルキナファソ・チャド・ニジェール・エジプト・チュニジア・アルジェリア・コロンビア・ジャマイカ</p>	<p>1975 -1986 海外経済協力基金(現 JICA) アフリカ円借款業務、カイロ中近東地域駐在員事務所駐在員、マネージメントコンサルティング企業出向 1986 -2013 世界銀行 アフリカ局 (ザイルローンオフィサー、国営企業改革)；南西アジア局 (国営企業改革、都市開発)；東アジア・大洋州局 (都市開発)；持続可能な開発総局 (都市開発戦略・調査研究) 2014— 世銀、ADB、UN、JICA 等の都市金融・開発コンサルタント及び東京大学大学院等講師</p>
	<p>高橋 一生 Prof. TAKAHASHI, Kazuo</p>	<p>国際公務員のあり方について (国際的忠誠、国際公共財の担い手など)。会議を通じての仕事の進め方。マルチ・ステークホルダーたちのまとめ方。多様な報告書の書き方。</p>	<p>アメリカ9年、フランス11年。</p>	<p>OECD DAC ではベーシック・ヒューマンニーズなどの担当として、コンセプト作成、それを援助機関共通のものとする作業が中心。その後、事務総長室課長としては国際参謀として冷戦と南北関係の接点に関する作業に従事。</p>

	<p>玉置 佳一 Mr. TAMAKI, Keiichi</p>	<p>都市開発・土地利用政策 都市交通 公共交通指向型開発 (TOD) 上下水道 観光開発 官民連携 (PPP) ゴミ処理・し尿処理・環境問題</p>	<p>インド バングラデシュ ネパール ブータン スリランカ インドネシア</p>	<p>(大阪市役所都市整備局に勤務の後) 1991 年から 2000 年まで世界銀行のインドネシア都市開発チームの一員として働き、短期間日本の国際協力銀行 (現在の JICA) で働いた後、2001 年から 2017 年までアジア開発銀行で勤務。</p>
	<p>仲 浩史 Mr. NAKA, Hiroshi</p>	<p>世界銀行で活躍してみたい人との懇談</p>	<p>特になし</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 財務省国際局開発政策課長として、日本の ODA 政策などを担当 (2008 年～2009 年)。</li> <li>➤ 世界銀行副総裁兼内部監査総長として、世界銀行の開発オペレーションなどを監査 (2014 年～2018 年)。</li> <li>➤ 東京大学未来ビジョン研究センター教授として、同大公共政策大学院で世界銀行の開発オペレーションを講義 (2019 年～)。</li> </ul>
	<p>藤村 建夫 Mr. FUJIMURA, Tatsuo</p>	<p>開発経済学、中小工業開発、南南協力、プロジェクトの運営管理、PCM 手法、援助人材の養成。</p>	<p>海外生活は英国 2 年を皮切りにミャンマー 3 年、ニューヨーク 10 年、上海 3 年、合計 18 年に亘る。アジア、中東、アフリカ、南米計 40 途上国を訪問した経験。</p>	<p>JICA 鉱工業開発協力部、企画部、国際協力総合研修所、ミャンマー事務所長を歴任。(財) 国際開発高等教育機構へ出向。UNDP で南南協力部、南南協力シニアアドバイザー。</p> <p>退職後、上海環境能源交易所上級顧問を経てミャンマー・日本エコツアーリズム(MJET)会長。同時に日本ミャンマー友好協会監事として、日本とミャンマーとの文化交流と投資促進に従事。</p>

	<p>松田 教男 Mr. MATSUDA, Norio</p>	<p>開発協力（援助政策・アプローチ、農業・農村開発他）、国際情勢（政治、経済、歴史）</p>	<p>東南アジア</p>	<p>1976年～2012年：JICA 駐在国：インドネシア（2012～2014、1985～1988）、フィリピン（2007～2011）、カンボジア（1999～2002） 2014年～2019年：北海道教育大学（国際協力論他担当）</p>
	<p>森田宏子 Ms. MORITA, Hiroko</p>	<p>国際公務員になるための応募書類作成支援、competency-based interview 対策、ライフ・ワークバランス 小島嶼国問題、開発のための科学技術、SDGs プロセス・実践・モニタリング、持続可能な開発一般</p>	<p>小島嶼国（カリブ海、南太平洋、インド洋、大西洋の独立島国）</p>	<p>国連本部・フィールドで35年間の勤務経験。 持続可能な開発に係る国際会議（科学技術諮問委員会運営、国連機関間の調整委員会運営、準備・交渉・イベント企画、等）。 ICU、上智大学の非常勤講師（国際公務員養成プログラム・アドバイザー）、外務省のJPO研修に従事。</p>
	<p>和氣 邦夫 Mr. WAKI, Kunio</p>	<p>国際開発協力人材養成 グローバルリーダーシップ マネージメント コミュニケーション 危機管理  SDGs の実践 国際協力とパートナーシップの構築</p>	<p>インド パキスタン バングラデシュ ナイジェリア タイ インドネシア</p>	<p>ECFA3年、その間OTCAより専門家としてインドネシア電力調査8ヶ月、中近東工業開発調査に1ヶ月派遣される。 国連開発機関36年間勤務：ユニセフ26年間、パキスタン、ナイジェリア、東京事務所長、東アジア地域事務所次長など歴任、その後UNDP UN Development Group Office 事務局次長として国連改革に従事、最後は国連人口基金事務局次長として7年間勤務。 2007年に退官後は関西学院大学総合政策学部客員教授として2018年まで教える。</p>